

あこがれの連鎖と幸せな暮らし創造事業 鹿児島県徳之島町（2019年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	世界的な価値が認知されつつある稀有な自然環境とそれらと共存してきた人の営み等の地域資源をIoT・AI等の現代のテクノロジーで磨き上げ、島内外へ訴求し、価値創造を図ることで、Society5.0が目指す「経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会」を推進する。	2.関連するゴール	
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	経済面では付加価値の高い生業創出と先端技術導入による「稼ぐ力」の発揮、社会面ではシマ（集落）から始まるナリワイ（小さな経済）創出と社会的包摂の具現化、環境面ではエコビレッジとしてのシマ（集落）の再興を行う。		
4.自治体SDGs推進等に向けた取組 【普及啓発】 ・町広報誌による周知等 【事業実施】 ・経済面の課題解決のため、クリエイティブコミュニティの構築、みらい創りプロジェクト等の実施 ・社会面の課題解決のため、国内外PR及び普及啓発活動等の実施、各課ごとの施策について目標としているSDGsの再認識を実施。 ・環境面の課題解決のため、エコビレッジコミュニティ再興等の実施 ・町内小中学生を対象にプログラミングコンテスト SHIMA×TECHを実施。	6.取組成果 クリエイティブコミュニティ構築において、プログラミング教室やソフトバンク(株)の人型ロボット「Pepper」を活用したプログラミング教育研修会、学校での取り組みとしてはプログラミングクラブを実施している。また、首都圏のIT企業である（株）CA Tech Kidsと連携し本町の小中学生を対象とした「第四回徳之島プログラミングコンテスト」を開催した。応募のあったプログラミング作品には全国レベルの評価基準で審査やコメントをいただき、子ども達のモチベーションや技術のステップアップに繋がった。（全国応募件数7,391件のうち本町からはトップ500に2名選出）エコビレッジコミュニティ再興において、地域おこし協力隊×集落×武蔵野大学生×民間企業の連携プロジェクトを実施。 クリエイティブコミュニティの構築において、島内テレワーカー数9人（2030年目標30人）達成度30% 結いの精神でつなぐエコビレッジコミュニティの再興において、コミュニティ（集落等）との協働で生まれた商品数（旅行体験商品、ボタニカル商品等）5件（2030目標10件）達成度50%		
5.取組推進の工夫 クリエイティブファクトリー構築、「おかげさまサイクル」でつなぐエコビレッジコミュニティ再興において、インターンシップとして大学生が来島し集落の中に入り込み地域特性を活かしたエコツアーを造成、また、徳之島の日常を紹介する、短歌を作り発信した。	7.今後の展開策 ワーケーション等、新たな取り組みの実施SDGs拠点施設として位置付けている「みらい創りラボ」井之川を活用することにより、SDGsの更なる推進を目指す。エコビレッジコミュニティ再興においては、オンライン活用でいろんな集落や職業も視野に入れ様々な取り組みに努めていきたい。		
8.他地域への展開状況（普及効果）	SDGs未来都市に選定されていることで、島外の企業からの地域課題解決連携依頼や学術機関からのヒアリング等、多くのお声がけを得られるようになり、活動を通す中で町施策において外部からの意見を入れられるようになった。		